



中国 25 西安-安康鉄道建設事業 (1)～(3)

陝西省西安-安康間に電化単線を新設することにより、西北・西南地域へのエネルギー資源、物資等貨物および旅客輸送力の増強を図り、もって西北・西南地域の経済発展に寄与する。

承諾額/実行額	350億円/270億4,300万円
借款契約調印	1995年11月～1997年9月
借款契約条件	金利2.3%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了	2000年12月～2003年1月
実施機関	鉄道部鄭州鐵路管理局



外部評価者 三島光恵(オーバース・プロジェクト・マネージメント・コンサルタンツ(株))
現地調査 2004年10月

評価結果

本事業では、将来の需要を考慮して秦嶺トンネルの延長が行われたこと等を除き、ほぼ計画通りに西安-安康間(西康線)の電化単線の建設(軌道、路盤、橋梁、トンネル、駅、変電所、通信・信号等の整備)が行われた。期間および事業費は、計画を若干上回った。

西康線の貨物および旅客輸送量は、2005年の計画値ではそれぞれ43億4,340万トン・km、11億4,228万人・kmであったのに対し、03年実績では、それぞれ40億6,288万トン・km、12億1,136万人・kmと、旅客については既に計画以上の実績を達成した。西康線による移動時間は約4時間でバスの約2分の1、運賃はバスの約3分の1で、西康線は沿線住民の重要な交通手段となっている。また、西安から安康への既存の迂回路である宝成線との比較では、輸送距離が542kmの縮小、時間は約14時間の短縮となり、

利便性は格段に高まった。

西康線は鉄鉱石、石油、食糧等を輸送することで後背地である四川省の経済活動を支えている。加えて沿線の観光者数も増加し、本事業は沿線地域[※]への経済発展に貢献している。

鉄道部は、組織の効率化・簡素化を進めており、技術、体制、財務面について問題はない。

※ 西安市、商洛市柞水県・鎮安県、安康市の人口は1,000万人を超える。

第三者意見

四川省および内陸部の輸送力増強に貢献した本事業は、開発の遅れていた秦嶺山脈山間の商洛市の活性化に代表されるように、沿線の開発に貢献している。

有識者 Mr. Qunren Li (学者)

中国鉄道科学院修士(経済学)。現在、中国鉄道科学院研究教授。専門は鉄道交通、経済学。

本事業による貨物輸送量、旅客輸送量等の変化

指標	計画値	実績値	
		2002年	2003年
貨物輸送量(万トン・km)	342,000 (2000年) 434,340 (2005年)	368,500	406,288
旅客輸送量(万人・km)	92,796 (2000年) 114,228 (2005年)	103,984	121,136
乗客数(万人)	407 (2000年)	400	454
運行本数(平均列車本数/日)	n.a.	46 [※]	48

出所:鉄道部鄭州鐵路管理局
※2001年の数値

本事業の実施地域●西康線が貫く秦嶺山脈

西康線は西安から約150km、中国の中央部陝西省に広がる秦嶺山脈を通過する。同山脈は、総延長1,500km以上、高さ3,000m級の山々が連なっており、植物が豊富に生茂り、トキ、パンダ、キンシコウ等野生動物の宝庫としても有名で、本事業による観光業へのプラスのインパクトが報告されている。



西康線が通過する柞水県付近の線路